

## 2021 年度 4 年次アンケート調査の結果報告

本学では、毎年 12 月～3 月にかけて、4 年次を対象とした「教育・学生生活に関するアンケート調査」（以下「4 年次アンケート」と表記）を行っている。このアンケート調査は、学部最終学年である 4 年次の学生が、本学の教育内容や学生生活についてどのような意識を持っているのか、また本学学生の学習実態などを明らかにすることで、今後の教育改善に活かすことを目的としている。ここでは、2021 年度に実施した 4 年次アンケートの主な項目の分析結果を中心に報告する。なお、回答人数が少なくかつ旧課程の専攻である史学専攻（2 名）、英語文学文化専攻（3 名）、言語科学専攻（1 名）は、分析の対象から除いた。

調査概要は以下の通りである。

目的：東京女子大学に通っている学生の学習及び大学生活に関する意識・実態調査

方法：Web 調査

対象：東京女子大学に在籍している 4 年次学生、1059 名（2022 年 1 月 1 日時点）

調査期間：2021 年 12 月 16 日～2022 年 3 月 18 日

有効回答数：907 名

有効回答回収率：85.6%

調査項目：アンケートの調査票は「基本事項」、「学業」、「学生生活」、「課外・学外の活動」、「学修支援」、「進路」、「その他」（自由記述）の項目で構成している。

本報告書では、「学業」に関する項目から、大学 4 年間の学生生活を通じての授業に対する満足度や、身についたと思うスキル・能力等を報告する。

また、本報告書で用いるデータは全数調査によるものなので有意確率（ $p$  値）は報告せず、平均値・標準偏差および効果量（ $\eta^2$ ）のみを報告する。なお、 $\eta^2$ については、Cohen(1988)の基準  $\eta^2 = .01$  (small) ,  $\eta^2 = .06$  (medium) and  $\eta^2 = .14$  (large) を用いた。

なお、参考のため過去 5 年間の回収率を表 1 に示しておく。2020 年度は、調査方法を質問紙調査から Web 調査へ変更した初年度のため、回収率が例年より低くなっている。

表 1 年度別に見た 4 年次アンケートの回収率

2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度 (Web 調査)	2021 年度 (Web 調査)
84.4%	83.9%	83.8%	85.9%	76.3%	85.6%

(1)授業に対する満足度の集計・分析結果

「授業全般」、「全学共通カリキュラムの科目の授業」、「第一外国語科目等の英語の授業」「第二外国語科目の授業」「学科科目（専門）の授業」「卒業論文、Final Presentation、数学講究、情報理学講究」の6つのカテゴリー別に、大学4年間の学修を通じての授業の満足度を尋ねたところ、表2のような結果となった。「大変満足している」、「満足している」、「どちらかと言えば満足している」の3つを合計した割合は、「授業全般」「全学共通カリキュラム」「学科科目（専門）の授業」「卒業論文、Final Presentation、数学講究、情報理学講究」の項目で9割以上であった。「第一外国語科目等の英語の授業」「第二外国語科目の授業」とも8割を超えており、授業に対する満足度は全体的に高いと言える。

表2 授業に対する満足度 (n=859)

	大変満足 している	満足 している	どちらかと 言えば満足 している	どちらかと 言えば満足 していない	満足 していない	全く満足 していない
	% (n)	% (n)	% (n)	% (n)	% (n)	% (n)
授業全般	14.8 (127)	45.1 (387)	33.2 (285)	5.8 (50)	0.6 (5)	0.6 (5)
全学共通 カリキュラム	16.4 (141)	42.0 (361)	34.8 (299)	5.4 (46)	0.8 (7)	0.6 (5)
第一外国語科目等 の英語の授業	10.2 (88)	31.7 (272)	38.2 (328)	12.2 (105)	5.7 (49)	2.0 (17)
第二外国語科目の授業	17.7 (152)	41.6 (357)	30.3 (260)	7.1 (61)	2.3 (20)	1.0 (9)
学科科目（専門）の授業	27.1 (233)	43.9 (377)	22.9 (197)	3.8 (33)	1.6 (14)	0.6 (5)
卒業論文、 Final Presentation、 数学講究、情報理学講究	27.1 (233)	38.6 (332)	24.7 (212)	5.8 (50)	2.0 (17)	1.7 (15)

授業に対する満足度を専攻別に比較するため、まず「大変満足している」=6、「満足している」=5、「どちらかと言えば満足している」=4、「どちらかといえば満足していない」=3、「満足していない」=2、「全く満足していない」=1と点数化し、それぞれの項目の平均値及び標準偏差を算出した（表3～表8）。

表3～表8は、専攻別に見た授業に対する満足度に関する6項目の平均値および標準偏差を示している。全ての項目かつ専攻で、満足度の平均値が4.0以上となった。効果量を見ても、全ての項目で専攻による違いは見られない。

表3 専攻別に見た「授業全般」に対する満足度

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
国際英語	4.67	0.860	121	$\eta^2 = .026$
哲学	5.02	0.680	42	
日本文学	4.82	0.828	76	
歴史文化	4.59	0.894	66	
国際関係	4.70	0.795	125	
経済学	4.53	0.833	96	
社会学	4.60	0.885	42	
コミュニティ構想	4.62	0.987	50	
心理学	4.84	0.717	75	
コミュニケーション	4.48	1.044	99	
数学	4.44	0.564	32	
情報理学	4.63	0.942	35	
合計	4.66	0.862	859	

表4 専攻別に見た「全学共通カリキュラムの科目の授業」に対する満足度

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
国際英語	4.64	0.894	121	$\eta^2 = .027$
哲学	5.02	0.680	42	
日本文学	4.84	0.834	76	
歴史文化	4.52	0.932	66	
国際関係	4.72	0.858	125	
経済学	4.65	0.846	96	
社会学	4.76	0.821	42	
コミュニティ構想	4.72	0.904	50	
心理学	4.71	0.802	75	
コミュニケーション	4.41	1.010	99	
数学	4.50	0.803	32	
情報理学	4.57	0.979	35	
合計	4.66	0.883	859	

表5 専攻別に見た「第一外国語科目等の英語の授業」に対する満足度

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
国際英語	4.43	1.079	121	$\eta^2 = .022$
哲学	4.67	1.097	42	
日本文学	4.16	1.071	76	
歴史文化	4.09	0.872	66	
国際関係	4.19	1.155	125	
経済学	4.28	1.013	96	
社会学	4.36	0.879	42	
コミュニティ構想	4.20	1.245	50	
心理学	4.01	1.121	75	
コミュニケーション	4.09	1.213	99	
数学	4.03	1.150	32	
情報理学	4.26	1.067	35	
合計	4.23	1.098	859	

表6 専攻別に見た「第二外国語科目の授業」に対する満足度

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
国際英語	4.67	1.036	121	$\eta^2 = .012$
哲学	4.93	0.778	42	
日本文学	4.64	0.934	76	
歴史文化	4.64	0.922	66	
国際関係	4.68	0.858	125	
経済学	4.60	0.957	96	
社会学	4.57	0.991	42	
コミュニティ構想	4.64	1.064	50	
心理学	4.61	1.038	75	
コミュニケーション	4.42	1.213	99	
数学	4.41	1.073	32	
情報理学	4.63	1.060	35	
合計	4.62	0.999	859	

表7 専攻別に見た「学科科目（専門）の授業」に対する満足度

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
国際英語	4.79	0.948	121	$\eta^2 = .050$
哲学	5.33	0.687	42	
日本文学	5.11	0.946	76	
歴史文化	4.79	1.015	66	
国際関係	4.94	0.850	125	
経済学	4.78	0.861	96	
社会学	4.93	0.640	42	
コミュニティ構想	4.76	1.061	50	
心理学	5.27	0.794	75	
コミュニケーション	4.83	1.107	99	
数学	4.53	0.718	32	
情報理学	4.46	1.146	35	
合計	4.89	0.940	859	

表 8 専攻別に見た「卒業論文、Final Presentation、数学講究、情報理学講究」に対する満足度

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
国際英語	4.74	0.973	121	$\eta^2 = .032$
哲学	5.43	0.703	42	
日本文学	4.66	1.302	76	
歴史文化	4.58	1.302	66	
国際関係	4.82	1.019	125	
経済学	4.73	1.051	96	
社会学	4.50	1.110	42	
コミュニティ構想	4.86	0.904	50	
心理学	4.89	0.909	75	
コミュニケーション	4.64	1.281	99	
数学	5.00	0.880	32	
情報理学	4.97	0.822	35	
合計	4.78	1.077	859	

次に、表 2 にある 6 項目の得点を合計し項目数で割った項目平均 ( $M=4.64$ ,  $SD=0.755$ , 最大=6, 最小=1, 因子分析で次元性も確認。 $\alpha = .862$ ) を算出し (以降「授業満足度得点」とする)、専攻別に満足度得点を比較した。

表 9 は、専攻別に見た授業に対する授業満足度得点の分析結果である。全ての専攻で、平均値が 4.0 以上であり、授業に対する満足度が高いと言える。効果量は小さく ( $\eta^2 = .027$ )、授業満足度得点に関する専攻の差は見られない。

表 9 専攻別に見た授業満足度得点

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
国際英語	4.66	0.802	121	$\eta^2 = .027$
哲学	5.07	0.570	42	
日本文学	4.70	0.752	76	
歴史文化	4.53	0.720	66	
国際関係	4.67	0.673	125	
経済学	4.60	0.731	96	
社会学	4.62	0.624	42	
コミュニティ構想	4.63	0.844	50	
心理学	4.72	0.671	75	
コミュニケーション	4.48	0.960	99	
数学	4.48	0.551	32	
情報理学	4.59	0.734	35	
合計	4.64	0.755	859	

図1～図6は、2017年度～2021年度の授業満足度について、「大変満足している」「満足している」「どちらかと言えば満足している」の回答結果を比較したグラフである。なお、「第二外国語の授業に対する満足度（図4）」は、2019年度から設問を追加した。「第一外国語科目等の英語の授業」「第二外国語の授業」は概ね毎年80%前後であり他の項目と比べて若干物足りなさを感じているようである。一方、その他の項目は概ね毎年90%以上であり、本学の授業に対する満足度は非常に高いと言える。今年度は、いずれの項目においても肯定的な回答全体の割合が増えているが、「授業全般」においてのみ「大変満足している」と回答した割合が減っていた。コロナ禍によりオンラインと対面での授業が併用されていることが一因と考えられる（例えば、授業内容には満足しているが、授業形態（前年度と同様に大学に来られないこと、あるいは、今年度から大学へ来なければならなくなったこと）への不満など）。

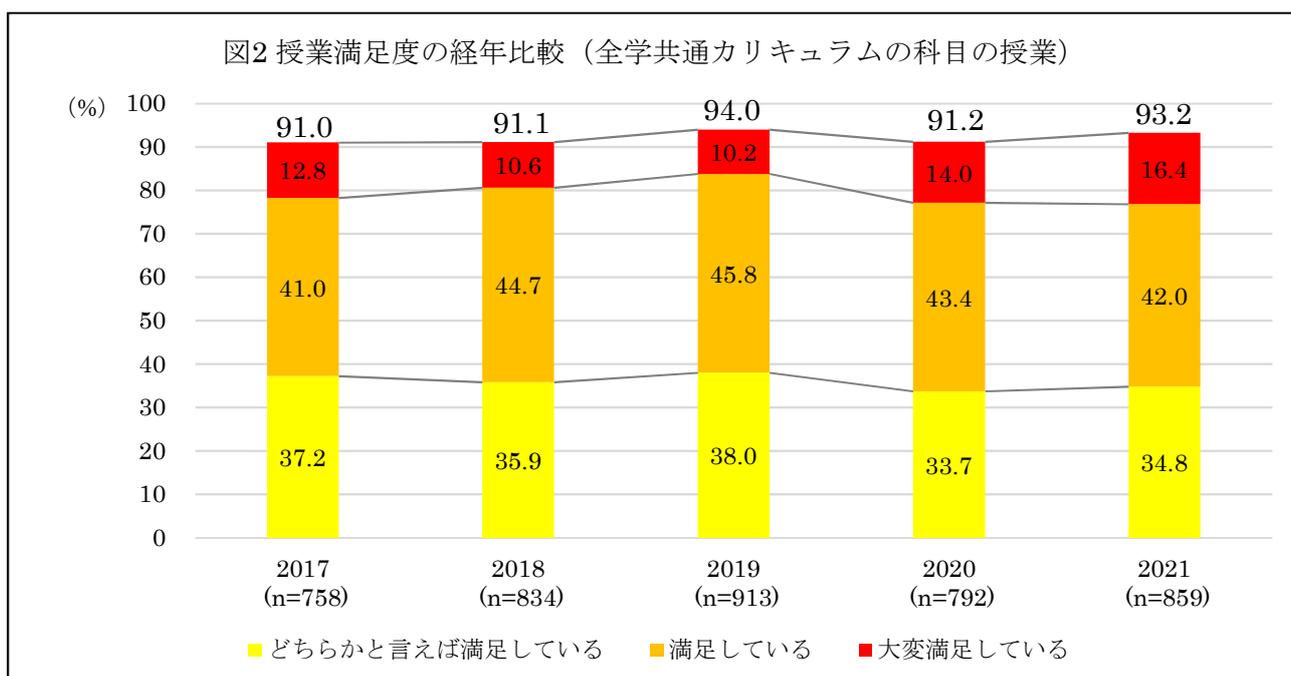
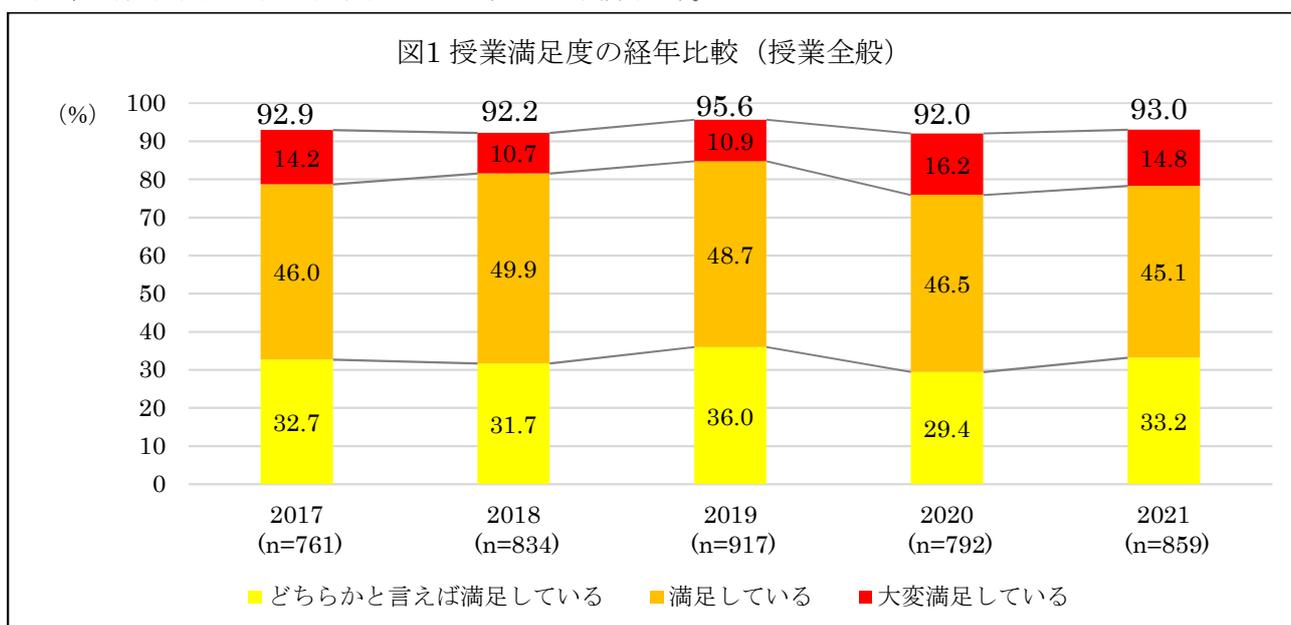


図3 授業満足度の経年比較（第一外国語科目等の英語の授業）

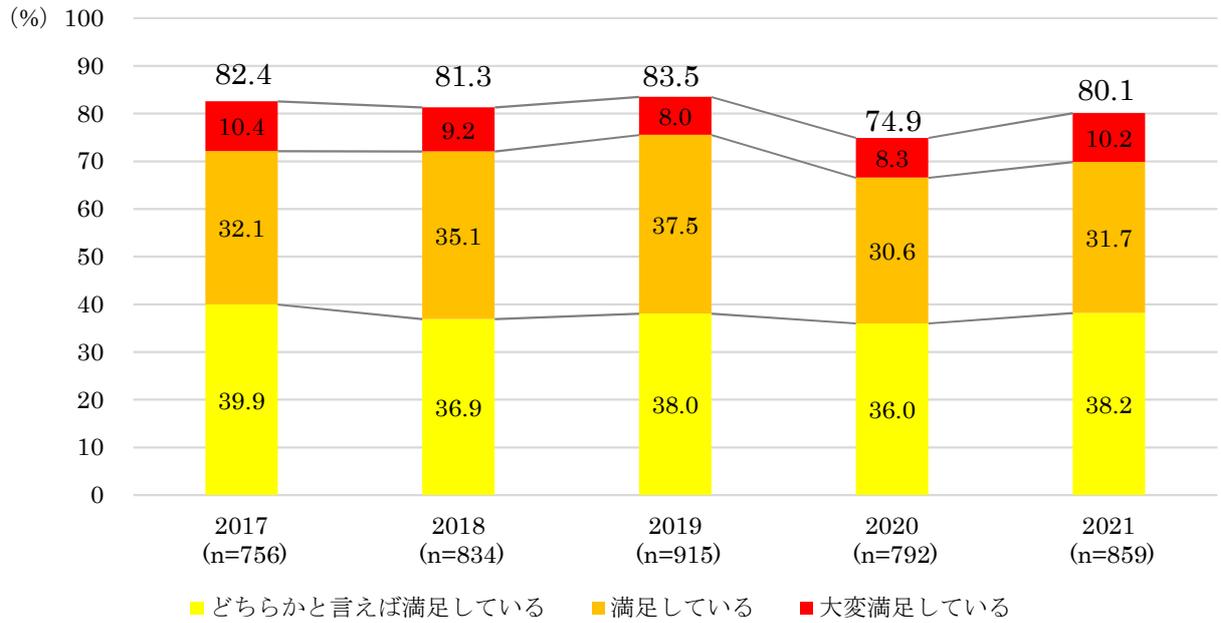


図4 授業満足度の経年比較（第二外国語科目）

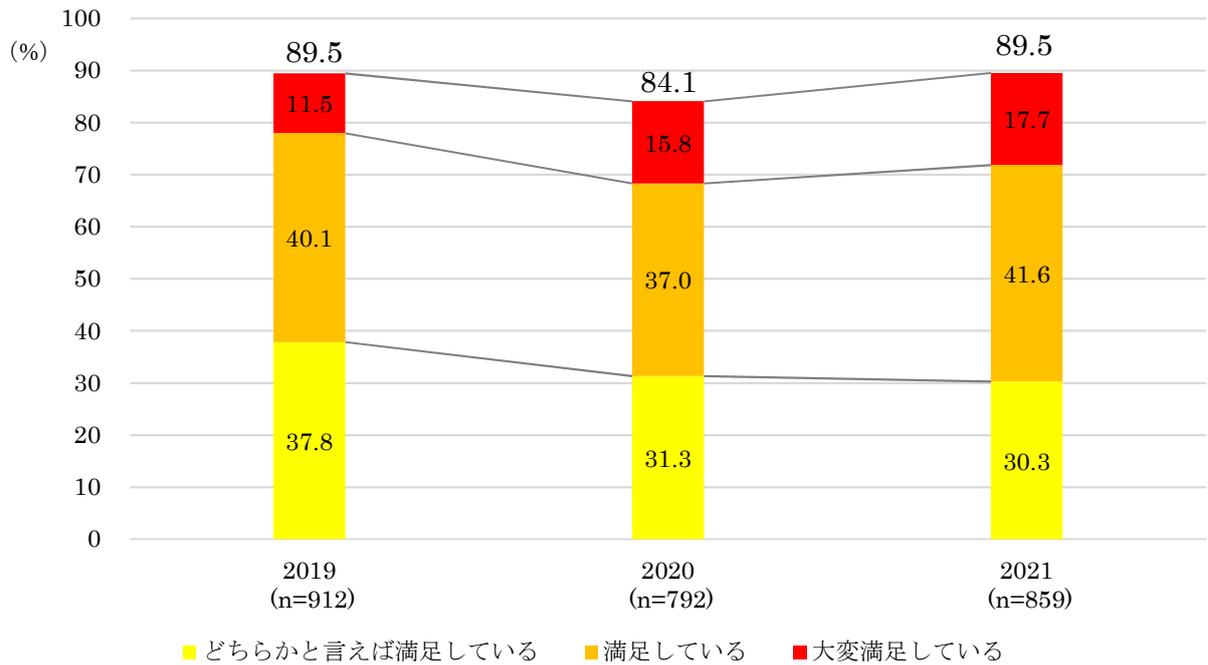


図5 授業満足度の経年比較（学科科目（専門）の授業）

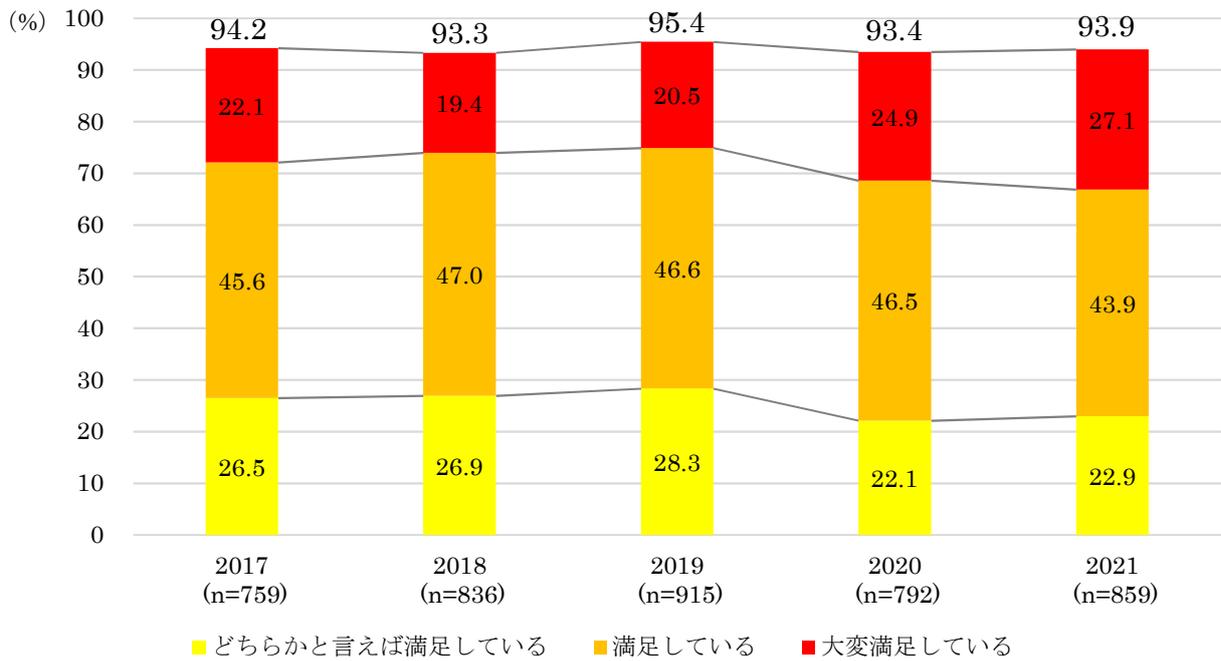
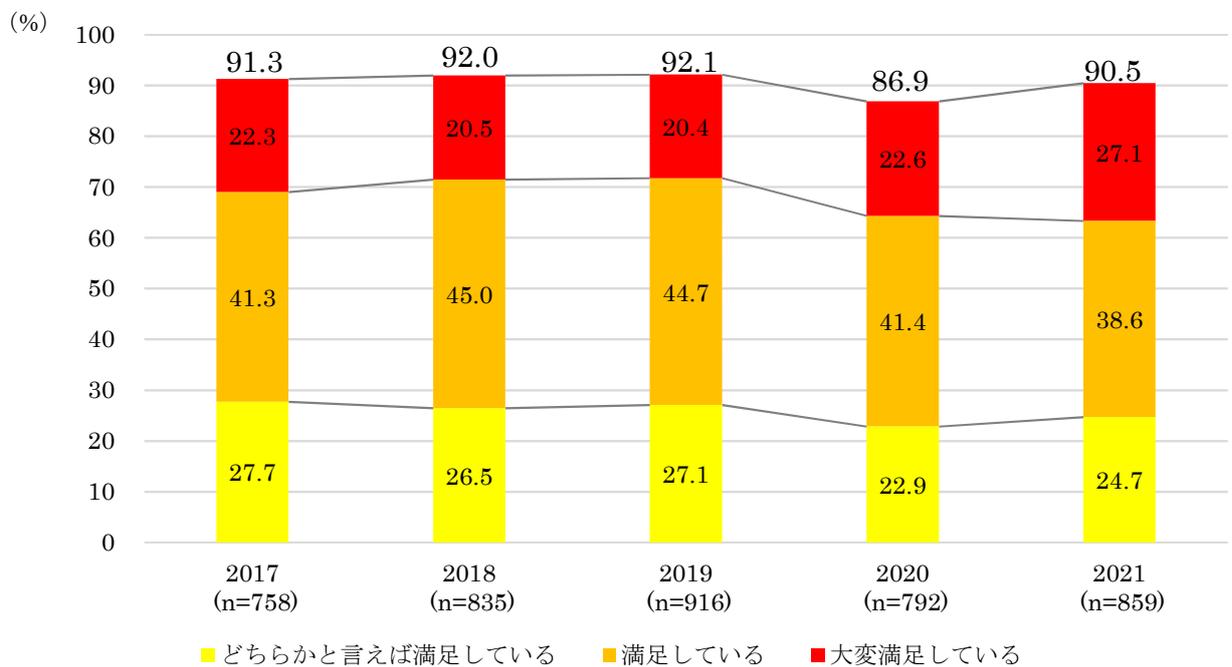


図6 授業満足度の経年比較  
（卒業論文、Final Presentation、数学講究、情報理学講究）



(2) 理解が深められたと思う項目の集計・分析結果

図7は、「大学での4年間の学びを通じて理解を深めることができたと思うこと」を調べるため、「日本の歴史と文化に対する理解」「多文化・異文化に対する理解」「国際的な諸問題に対する理解」「現代社会で生起する諸問題に対する理解」「自然や環境問題に対する理解」「自己の身体に対する理解」「キリスト教に対する理解」「ジェンダー問題に対する理解」「自分の専攻分野に関する理解」「自分の専攻分野に隣接する分野の理解」の10項目について集計した結果である。

「非常にそう思う」「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の3つを合計した割合を見ると、「自分の専攻分野に関する理解」が最も高く、96.0%だった。次に「ジェンダー問題に対する理解」で95.2%、「キリスト教に対する理解」の90.4%、「自分の専攻分野に隣接する分野の理解」の90.1%であった。

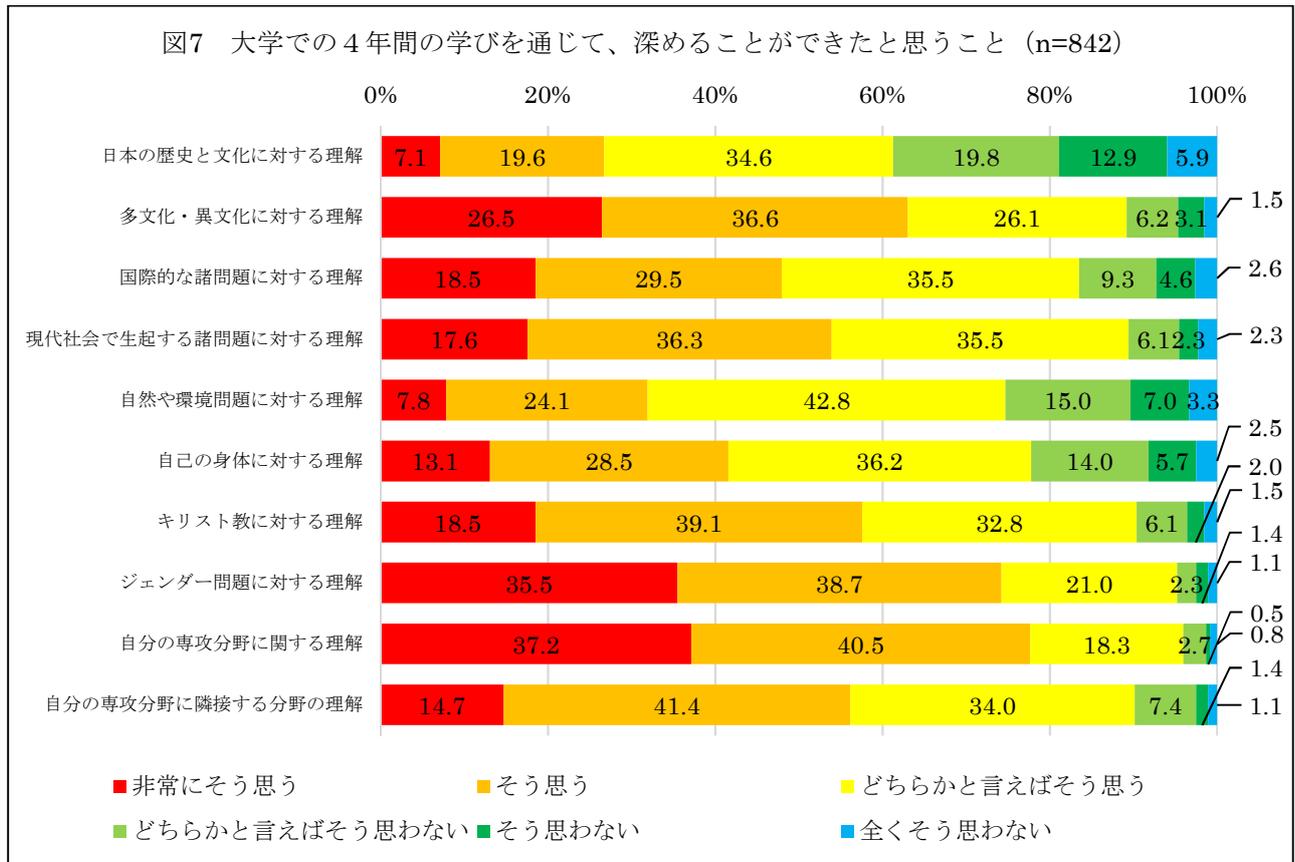


図7に示した10項目について、得点を合計しそれを項目数で割った項目平均を算出し、「理解総合得点」(M=4.49, SD=0.753, 最大=6, 最小=1; 因子分析で次元性も確認。α=.881)として、専攻別に理解総合得点を比較した。

表10は、専攻別の理解総合得点である。平均値が一番高い専攻でM=4.77、一番低い専攻でM=3.97だった。効果量は中程度 ( $\eta^2 = .079$ )、専攻間における理解総合得点の差が僅かに見られた。

表10 専攻別の理解総合得点

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
国際英語	4.60	0.611	118	$\eta^2 = .079$
哲学	4.77	0.598	42	
日本文学	4.60	0.722	75	
歴史文化	4.56	0.688	65	
国際関係	4.69	0.670	122	
経済学	4.38	0.738	95	
社会学	4.52	0.598	40	
コミュニティ構想	4.69	0.720	48	
心理学	4.47	0.643	74	
コミュニケーション	4.19	0.990	98	
数学	3.97	0.848	32	
情報理学	4.05	0.788	33	
合計	4.49	0.753	842	

(3)身についてスキルに関する項目の集計・分析結果

図8は「大学4年間の学びを通じてどのようなスキルや力を身につけることができたと思うか」を調べるため、「学術的な文献の読解力」、「人の話を聞いて、要点をつかむ力」、「プレゼンテーションにおいて、効果的に話をする力」、「ディスカッションにおいて、論理的に意見を述べる力」、「論理的でわかりやすい文章を書く力」、「わかりやすいプレゼンテーション資料を作成する力」、「パソコンで図表を作成する力」、「課題に応じて、適切な資料を収集する力」、「相手や場面に応じたコミュニケーション力」、「グラフや表で示された統計資料を理解できる力」の10項目について分析したものである。

「学術的な文献の読解力」、「人の話を聞いて、要点をつかむ力」、「プレゼンテーションにおいて、効果的に話をする力」、「論理的でわかりやすい文章を書く力」、「わかりやすいプレゼンテーション資料を作成する力」、「課題に応じて、適切な資料を収集する力」、「相手や場面に応じたコミュニケーション力」、「グラフや表で示された統計資料を理解できる力」の8項目で、「非常にそう思う」「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の3つを合計した割合が8割を超えた。他の項目でも7割を超えており、本学での学びを通して汎用的なスキルや力を身につけられていると考えている学生が多い事がわかった。

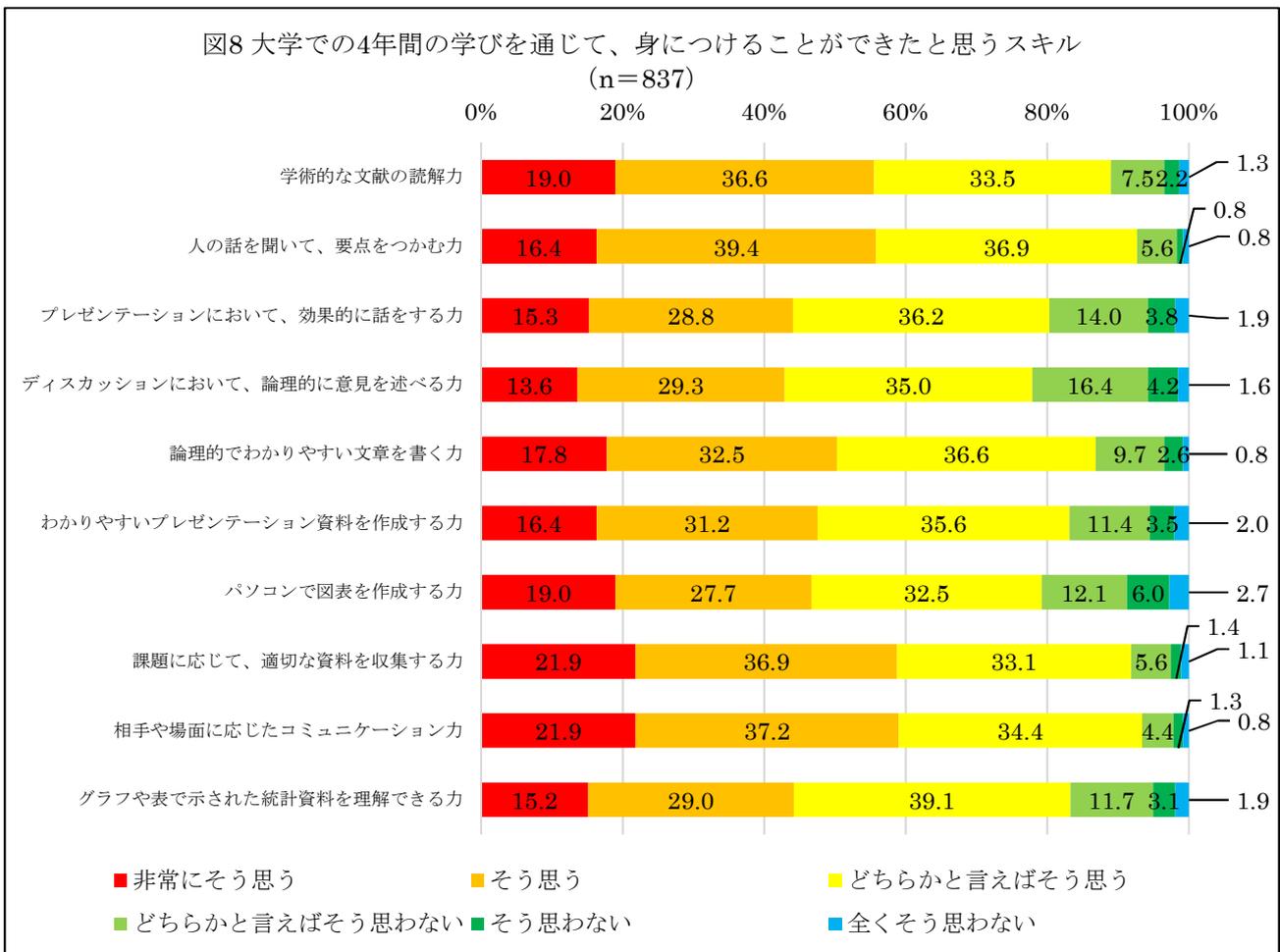


図 8 に示した 10 項目についても、得点を合計しそれを項目数で割った項目平均を算出し、「スキル総合得点」(M=4.48, SD=0.823, 最大=6, 最小=1; 因子分析で一次元性も確認。α = .926) として、専攻別にスキル総合得点を比較した。

専攻別にスキル総合得点を見ると (表 11)、一番高い専攻で M=4.73、一番低い専攻で M=4.21 だった。効果量は小さく ( $\eta^2 = .030$ )、スキル総合得点に関する専攻の差は見られない。

表 11 専攻別のスキル総合得点

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
国際英語	4.54	0.734	117	$\eta^2 = .030$
哲学	4.59	0.643	42	
日本文学	4.58	0.822	75	
歴史文化	4.32	0.910	64	
国際関係	4.51	0.818	120	
経済学	4.40	0.722	95	
社会学	4.40	0.606	40	
コミュニティ構想	4.69	0.921	48	
心理学	4.73	0.695	74	
コミュニケーション	4.34	1.015	97	
数学	4.26	0.834	32	
情報理学	4.21	0.962	33	
合計	4.48	0.823	837	

(4) 身についた能力に関する項目の集計・分析結果

図9は、「大学での4年間の学びを通じてどのような能力を身につけることができたと思うか」を調べるため、「問題を発見し、的確に把握する力」、「状況を的確に判断する力」、「課題に応じ、収集した情報を効果的に活用する力」、「物事を偏りなく多角的に検討する力」、「問題を解決する力」、「肯定的な意味で批判的に考える力」、「数字やデータに基づいて物事を考える力」、「自らを律して行動できる力」、「責任感」、「倫理観」、「率先してグループをまとめリードする力」、「人間関係を築いたり調整したりする力」、「主体的に行動する力」、「自主的に学習を継続する力」の14項目について分析したものである。

「数字やデータに基づいて物事を考える力」と「率先してグループをまとめリードする力」を除いた12項目で、肯定的な意見が8割を超えた。

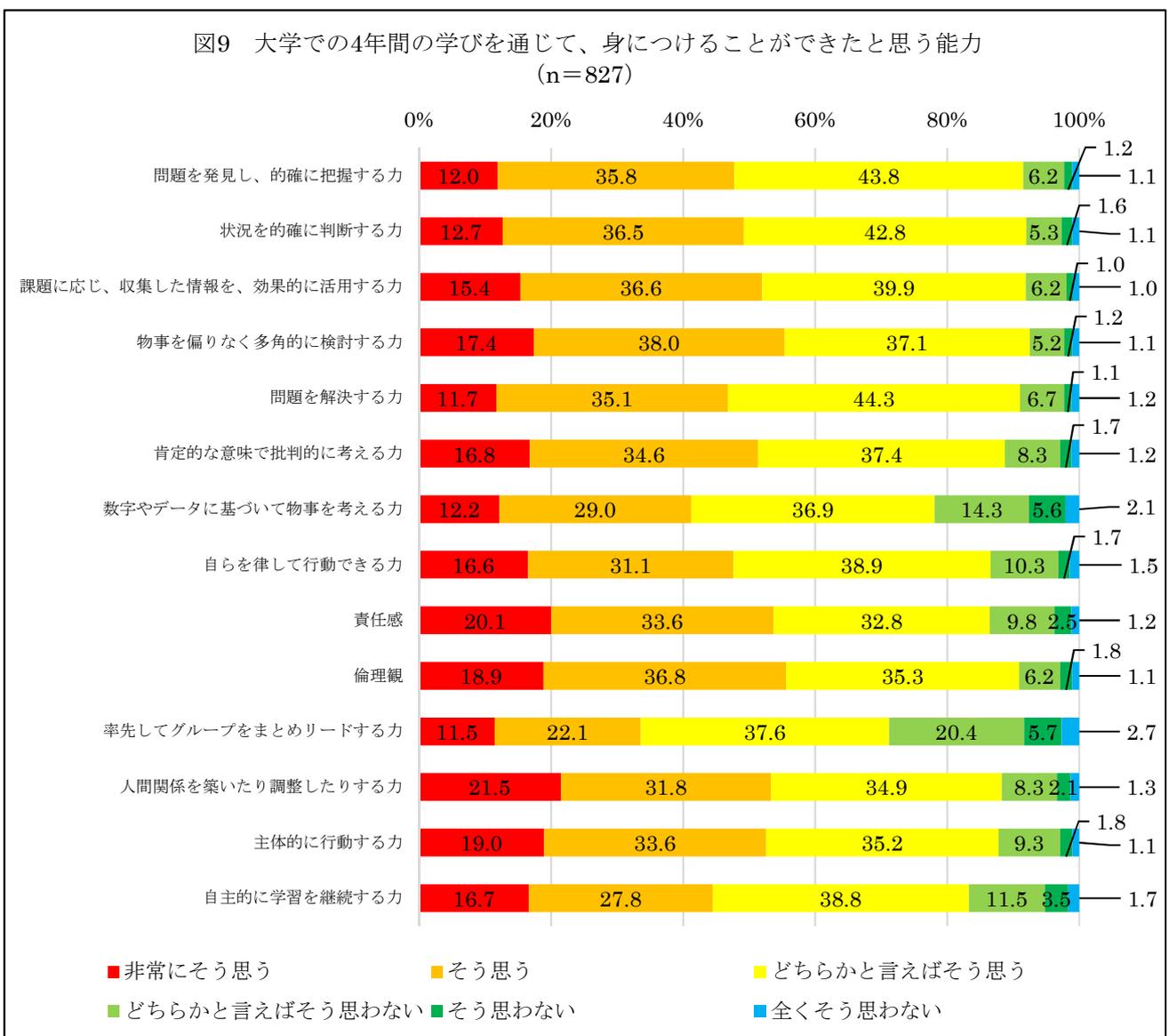


図 9 に示した 14 項目についても、得点を合計しそれを項目数で割った項目平均を算出し、「能力総合得点」(M=4.47, SD=0.777, 最大=6, 最小=1; 因子分析で次元性も確認。α=.946) として、専攻別に能力総合得点を比較した。

専攻別に能力総合得点を見ると (表 12)、平均値が一番高い専攻で M=4.70、一番低い専攻で M=4.24 だった。効果量は小さく ( $\eta^2 = .026$ )、能力総合得点に関する専攻の差は見られない。

表 12 専攻別の能力総合得点

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
国際英語	4.55	0.676	116	$\eta^2 = .026$
哲学	4.70	0.660	42	
日本文学	4.51	0.739	75	
歴史文化	4.42	0.889	64	
国際関係	4.58	0.731	120	
経済学	4.35	0.684	93	
社会学	4.52	0.530	39	
コミュニティ構想	4.60	0.936	46	
心理学	4.47	0.727	74	
コミュニケーション	4.25	0.983	95	
数学	4.41	0.746	31	
情報理学	4.24	0.847	32	
合計	4.47	0.777	827	